

沿岸沖合域海況調査

(予算区分 受託・県単独 研究期間 平成9年度～)

担当：水産技術研究所資源海洋科 海野幸雄

【研究の背景とねらい】

本県沿岸沖合域の水産資源の維持管理を進めるために、資源動向に密接な関係のある海洋環境を把握して情報の高度化を図り、的確な速報として漁業者、関係団体へ伝達します。

【これまでに得られた成果】

- ・ 本県沿岸沖合域の海水温は、黒潮流路の影響を受けて変動し、長期的な黒潮流型と沿岸水温の関係では、A型>B型>N型>C型>D型の順に水温が低くなる傾向がみられます。また、A型およびB型では平年より高め、N型およびC型では低めとなります。しかし、黒潮の影響は相模湾と駿河湾、湾奥と湾口で異なり、それぞれの場所の特徴を持っています。
- ・ 平成27年の黒潮流路は、4月～5月はC型、6月～7月は小蛇行の東進によりN型、B型、D型、8月～10月はC型、11月はN型、12月～3月はB、C、D型と流路変化を繰り返しました。沿岸水温は7月に低め、8月、2月に高めの他は、概ね平年並みで推移しました。
- ・ 伊豆諸島北部海域が冷水域となるC型時にはサバ類の漁場形成が暖水の波及の状況と関連していることが確認されました。
- ・ 調査結果を基に、漁況や海況の速報として1回/月、漁況予測については3回/年発表し、研修会やFAX等を通じて関係漁業者に伝達しました。

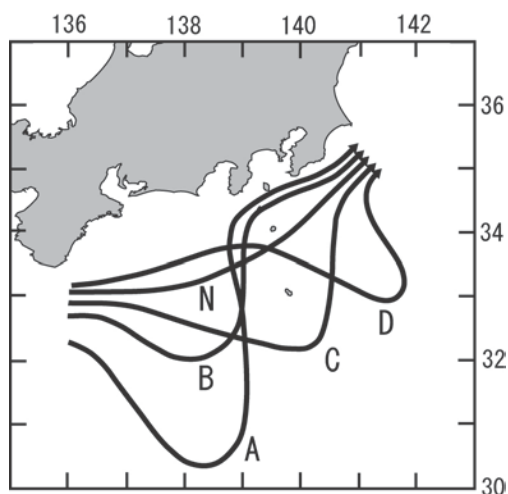


図1 黒潮流路の型

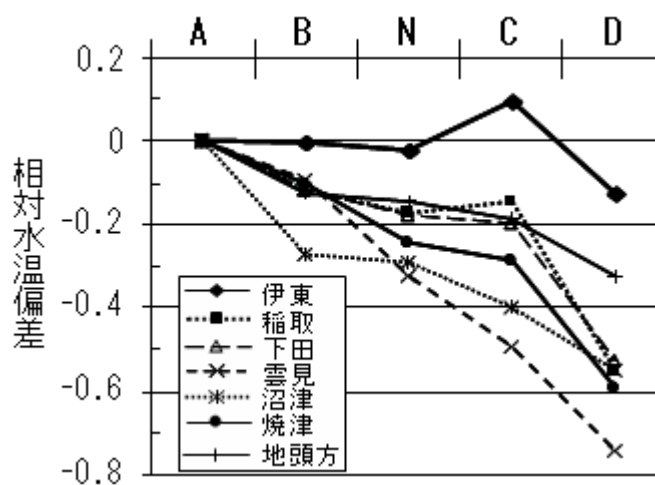


図2 黒潮流型による沿岸水水温の変化

【期待される成果】

- ・ 沿岸沖合域の調査結果は速報や漁況予測の基礎資料となり、それを活用することにより効率的、経済的な操業が可能となります。
- ・ 継続して海況調査を行うことで温暖化などに関連した環境把握が可能となります。

【今後の計画】

静岡県沿岸沖合域の海況調査を継続実施し、海況変動と漁況変動との関係を明らかにするとともに漁海況予測の精度向上を図ります。

(作成 平成28年4月)